

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

ねん
1904~1968年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

し じん しょうせつ か
詩人、小説家



ゆかりのある場所:

かさおかしりつとよしかん
・笠岡市立図書館

きやましようへいぶんかく
【木山捷平文学コーナー】

きやましようへいせいが
・木山捷平生家

きやましようへいしひ
・木山捷平詩碑



きやま

木山

しょうへい

捷平

新高 高総 早倉 矢井 浅里
見梁 社島 敷掛 原口 庄
市市 市市 町市 町市 町市

笠岡市



きやましようへい めいじ ねん いま かせあかしやまぐち う
木山捷平は、明治37(1904)年、今の笠岡市山口に生まれました。

しょうへい ぶんかく みち びだ ちゅうがっこう じ だい ちちおや ほんたい がっこう せんせい
捷平が文学への道を志したのは中学校時代からでした。父親に反対され学校の先生と
なつた時期もありますが、ぶんかく びだす たいしやう ねん じょうきやう
文学への志を捨てきれず、大正14(1925)年に上京しました。
し じん しょうせつ か さつ かつどう かせあか ふうど そざい し しょうせつ
詩人、そして小説家として作家活動をし、ふるさと笠岡の風土を素材にした詩や小説を
おお のこ
多く残しました。

しょうわ ねん ぶんびつ かつどう かつやく ば もと きゅうまんしゅうこく いま ちゅうこくどう ほう ふ わた
昭和19(1944)年、文筆活動の活躍の場を求めて旧満州国(今の中国東北部)に渡り
ましたが、げん ち しょうしゅう くん にゅうたい しゅうせん ご せい し あいだ なん みるん せい かつ おく
現地でも召集され軍に入隊し、終戦後、生死の間をさまよう難民生活を送り
ました。

しょうわ ねん ほんびやう しょうせつ みみがくもん こうひやう しょうわ ねん せん そう たいけん
昭和31(1956)年に発表した小説『耳学問』が好評で、昭和37(1962)年に戦争体験を
か ちやうへんたいさく たいりく ほそみち にんき さつ か ち い かくりつ
もとに書いた長編大作『大陸の細道』によって人気作家としての地位を確立しました。
しょうへい さく ぶん せい かつ こうゆう たいざい ひろ あ ぶんかく お あ し
捷平の作品には、生活や交友のなかから題材を拾い上げ、それを文学に押し上げた私
しょうせつ おお まんしゅう くる せいかつ たいけん ふか じん せい かん
小説が多く、満州でのつらく苦しかった生活体験によって深められた人生観をもとに、のび
のかん せいしん えが だ
のびとした、果敢な精神をもって描き出されたものが多いです。

しょうへい けんしやう ぶん がく しん こう もくてき かせあか し きやましようへい ぶん がく せんしやう ぶん がく さく ぶん
捷平の顕彰と文学振興を目的として「笠岡市木山捷平文学選奨」という文学作品のコン
まいとしひら
クールが毎年開かれています。